

カトマンズ盆地の交通事情

特定非営利活動法人 ミランクラブジャパン
理事長 マナダール マダーブ ナラエン

空路でカトマンズ到着後、殆どの人はタクシーか迎えの車で市内へ向かう。ローカルバスがあるにはあるが、当てにはできない。



トリブバン国際空港

私が6歳の頃、初めて乗った車はアメリカ車だった。その頃はタクシーがまだなくて、アメリカのボランティア団体に勤める知人が乗せてくれたものだった。大きな車で風を切って走るそのスピードに怖さを感じたのを覚えている。車自体が珍しかったその時代はアメリカ車とソ連車が主流だった。その後インド製のアンバサダーという車が入ってきた。

突然思い出したことだが、その頃の勉強は紙のノートがまだなくて、石板のようなもので書いては消して、また書くというものだった。父親の店先で勉強していた時、外国人観光客が興味深そうに見ていたのを覚えている。得意げに一生懸命勉強しているふりをしていたかもしれない。

私の記憶での市内の交通手段は、自転車、リキシャ、乗り合いワンボックスカー、乗り合いジープ、サーザー（公共）バス、インド車タクシー、テンポ（6人乗り三輪オートバイ、オートリキシャ）、日本車タクシーへと続く。



テンポ

現在、タクシーはメーター付きタクシーしか認められていないが、乗車後にメーター外交渉してくる運転手もいる。



タクシー



リキシャ

タクシーのナンバープレートは黒地に白文字で統一されている。夜間運賃は21時から翌朝6時までで1.5倍の料金がかかる。ちょっとした広場やホテル前等にはタクシーが待機しているが、電話でも呼べる。

リキシャは昔、庶民の乗り物だったが、今は日本の人力車のように観光客用となっており、料金も高い。

車のナンバープレートは

1. 自家用乗用車
赤プレートに白文字
2. 公共用乗用車
黒プレートに白文字（タクシー、バス、テンポ、リキシャ等）
3. 政府用乗用車
白プレートに赤文字
4. ツーリスト用乗用車

グリーンプレートに白文字 (旅行会社やホテル用のみ申請)

5. 半官半民企業用乗用車
黄色プレートに青文字

6. 国連用乗用車
青プレートに白文字

大統領専用車のナンバープレートにはナンバーはなく紋章のみである。

ネパールでのバスの乗り方は、長距離バスはカトマンズのサマクシ (ゴングブ) にバスパークがあり、窓口で前もって買っておく。当日でも空きがあれば買える。バスには車掌と距離によって 2 名の運転手が乗っている。食事休憩やトイレ休憩での停車も時間ごとに予定されている。荷物はバスの屋根に乗せたりもするが、人が乗っていることもある。屋根の上でも運賃は同じである。



バスパークの様子



出発を待つバスの様子

短距離バスは近くの住民に聞くのが一番で、行き先とバス停を教えてもらう。バスの時刻表はないので、あっても正確ではないので、根気よく待つ。運賃は同乗の車掌に車内で払うが、混んでいる時は下車時に払う。どこから乗ったかを車掌が覚えているのはすごいと思う。

カトマンズでは移動手段が車なので排気ガスや埃で街が霞んでいることがある。人口も集中しているので街の喧騒はびっくりするほどだ。



サーザーバス

ネパールで鉄道が走っているのは南の地域で、インドのロクソールからネパールのアムレクガンジーまでと、インドのジャヤナガルからネパールのジャナカプールまでの 2 路線だけである。将来的にカトマンズ盆地を電車が走る計画はある。インド側からカトマンズまでとチベット側からカトマンズを通り、ルンビニまでの構想がある。



1955 年ネパールに初めて公共バスが導入された当時の記念切手



1970 年の乗り物、バドガウン町(バクタプール)